

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ゆず王子公園ルーム		
○保護者評価実施期間	2025年3月10日		2025年3月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年3月20日		2025年3月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年2月20日		2025年3月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	9	(回答数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月26 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの様子を丁寧に伝えながら、現場の先生方と一緒に「どう関わるとよいか」を考えて支援できている。できるだけ日々の保育の流れに沿ったアドバイスを心がけており、実際の場面で活かしやすい提案につながっている。	難しい表現や専門用語を避け、先生方にとってイメージしやすい伝え方を意識している。また、忙しい時間帯を避けて声をかけるなど、現場の状況に配慮しながらやりとりを行っている。	より伝わりやすくなるように、話し方や伝えるタイミングを振り返り、他の職員とも工夫を共有していきたい。報告や記録のフォーマットも、わかりやすさを意識して見直していく予定。
2	気になる行動に対しても、背景にある気持ちや発達の特徴を見ながら支援できている。「どうすれば安心できるか」「どう関われば意欲が出るか」といった視点で考えることで、子どもらしさを大切にしたい関わりができています。	「こうするといいかもかもしれませんね」といった形で、先生方の気づきや経験を大切にしながら支援を進めている。行動を変えることを目的にするのではなく、その子に合った関わりを一緒に考える姿勢を大切にしている。	自分の考えをもっと分かりやすく伝えられるよう、日々の支援を振り返る機会を持ちたい。また、どうしてその関わりをするのかといった“理由の伝え方”も工夫していく。

3	保育所・幼稚園・こども園など、それぞれの園のやり方や雰囲気などを大事にしながら支援ができています。訪問先ごとの違いを理解し、無理なく受け入れてもらえるような関わり方を工夫している点が強みである。	初めての園では、まず丁寧に話を聞くことを意識し、「支援する側」ではなく「一緒に考える仲間」として見てもらえるような関係づくりを心がけている。少しずつ園の先生方と信頼関係を築くことで、提案もしやすくなっている。	訪問支援の導入がスムーズになるよう、支援内容や流れを簡単にまとめた案内資料などを整えていきたい。園の先生方が「支援を受けやすい」と思える仕組みを作っていくことが今後の課題である。
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問希望が多い中で、対応できる支援員に限られており、すべてのニーズに応えることが難しい状況がある。特に新規の依頼や継続的な支援の調整に時間がかかる場合がある。	訪問支援に対応できる職員が一部に限られており、兼務やスケジュールの重なりにより、柔軟な調整が困難になっている。今後の支援体制の見直しが求められている。	訪問支援に専念できる人員の確保と、業務分担の整理が必要である。中長期的には支援員の育成と配置の計画を立て、安定した訪問体制の構築をめざす。
2	訪問支援の際に伝えた内容が、訪問先の施設内で十分に共有されないことがあり、支援が一部の先生だけにとどまってしまうことがある。	現在は主に口頭での伝達が中心となっており、記録や資料の形式が統一されていない。誰でも確認できるような仕組みが整っておらず、情報が断片的になりやすい。	支援内容を簡潔にまとめた共有用のシートや報告書を整備し、先生方が確認しやすい形での伝達を目指す。園との情報共有の方法と一緒に検討し、スムーズな連携につなげていきたい。
3	訪問支援に初めて取り組む支援員は、現場との関係づくりや支援の進め方に戸惑う場面が見られる。経験差による質のばらつきが課題となることがある。	訪問支援特有のスキルや立ち振る舞いに関する研修やOJTの仕組みが十分に確立しておらず、個人の感覚に依存してしまっている面がある。	経験者との同行や事例検討の機会を増やし、実践を通じて学べる場を整えていく必要がある。訪問支援の基本姿勢やコミュニケーションの取り方についても、体系的な指導を行っていきたい。